

献辞

本学法学部教授市原正七先生は、昭和六十三年三月末日をもって、定年まであと数年を残しながら本人の強い御希望により退職なさいました。わが法学会は、教授会決議にもとづき、ここに退職記念号を発刊いたすことになりました。ささやかながら本誌から、われわれの心からの感謝と惜別の情をお汲みとりいただきたいと存じます。

市原先生は大正十年に兵庫県洲本市に御生れになり、旧制法政大学法文学部法律学科を御卒業ののち、三重短期大学法経学科教授をへて、昭和四十五年四月本学に御着任になりました。本学では商法担当の教授として活躍され、四八―四九年には法学部長も勤められました。また先生のお若かった頃は太平洋戦争の最中であり、先生は軍隊生活も体験なさったとうかがっております。近年、わが学部は年齢構成が大変若くなりましたので、先生は、わが学部における数少ない軍隊体験者のお一人であり、我々もしばしばその思い出話をうかがうことができました。

先生は何よりも温厚な方であります。先生のまわりにはいつも春風駘蕩とした暖く、かつのびやかな雰囲気があったよっております。私のようなきわめて気短かで激しい性格の人間は常に先生を目標とし、あのようにおだやかな人になりたいものといつも願いつつ、しかも遠く及びません。

先生はまた、本学におられた間教育にきわめて熱心な方でありました。私のゼミ室はたまたま先生のゼミ室の隣だったため、先生が若い教員もとうてい及ばぬ程熱心に教育にとり組んでおられる御姿をいつも拝見しておりました。先生が今後ともますますお元気で、ますますお若く、学問の発展のために御尽力くださるよう祈ってやみません。

一九八八年十一月

法学部長 丸山 敬 一